

堺市博物館

堺市博物館は百舌鳥・古市古墳群とものづくりと商業の中心である堺の歴史を中心に展示している。仁徳天皇陵古墳に隣接する広大な大仙公園の中にある博物館は 1980 年に開館した。

博物館で最初に訪れる部屋は小さな劇場になっていて、古墳の築造についてのビデオを上映している。元々は、埴輪という装飾用の素焼の形象焼き物が外側の平らな面に並べられた。中が空洞になったこれらの埴輪には、人、動物、象徴的な形のものなどがある。博物館はたくさんの素焼きの埴輪を収蔵しており、珍しい木製の埴輪もいくつかある。ビデオでは日本最大の古墳である仁徳天皇陵が紹介される。皇室とつながりがあるため、この古墳は未だ内部調査がされていない。現在でも、広大な古墳の上に立つことさえ禁じられている。

博物館は商業地としての堺の長い歴史についての物品も収蔵している。日本製火縄銃のコレクションや商業船模型、織機、堺の産業において重要な役割を果たしたその他の品々が展示されている。堺は武将たちが争っていた 16 世紀から 17 世紀にかけて火縄銃が作られていた地としても有名だ。展示物の中でも人気があるのが、残存している最大の日本製火縄銃だ。徳川家康（1543 年 - 1616 年）が将軍となった 1603 年から 200 年以上の間は平穏で、堺の銃の製造者たちは腕を磨き、侍や君主たちに武器を売っていた。日本では銃産業は第二次世界大戦後に規制されたが、包丁づくりや自転車の製造などの鍛造業は今もこの地で盛んに行われている。